

自治体名	埼玉県
------	-----

### 女性の健康づくり対策の概要

県民を対象とした健康づくり施策については、健康増進計画（すこやか彩の国 21 プラン）に基づき事業を実施している。事業の実施主体は主に保健所や市町村で健康相談や健康教育、講演会等を実施している。

日本助産師会への委託事業として、思春期の子供たちが将来を見据えて自己決定し、自ら課題を解決する能力を養うために平成19年から思春期保健ピアカウンセリング事業を実施している。さらには、平成20年度埼玉県衛生研究所が女子大学生3,000人を対象に健康に関するアンケート調査を実施し、若い女性の健康に関する課題の分析を行った。

また、本県では女性の特有のがん検診受診率が全国と較べても低いことから、女性がんに関する普及啓発事業を実施し受診率の向上を図っている。

### 自治体の特徴

埼玉県は、東京に隣接する県南の都市部と農村部が広がる県北部、秩父地方に代表される山間部を併せ持つ県で、その生活様式や家族形態等が地域により大きく異なっている。本県は全国で4番目に平均年齢が若い県であるが、今後全国で最も速いスピードで高齢化の進むことが予想されている。

### 人口構成（H21.3.9現在）

	総数	男	女
人	7,211,739	3,628,712	3,583,027
割合(%)	100	50.32%	49.68%

15歳未満	986,632	505,106	481,526
15～64歳	4,868,774	2,505,092	2,363,682
65歳以上	837,685	414,073	423,612
75歳以上	394,717	170,863	223,854
85歳以上	123,931	33,578	90,353

### 女性に関する健康課題

当県は、女性の平均寿命は85.75歳で全国42位となっている。また、女性の標準化死亡比では、乳がん（108.9）子宮がん（120.8）と高く、特に乳がんによる死亡は30歳から64歳の女性のがん死亡の1位となっている。女性ががん検診の受診率は、子宮がん検診受診率は12.0（39位）、乳がん検診受診率は9.8（46位）といずれも全国より低い。

県内女子大学生を対象にした健康に関するアンケート調査では（3,016回収）、「太っている」「少し太っている」としている者は66.7%で、ダイエットの経験のある者が74.2%となっておりやせ志向が強い。また、「イライラして過食・拒食をしたことがある」と答えた者は46.1%、「リストカットしたことがある」と答えたものは7.4%となっている。また、交際相手がいると答えた73.2%のうち、デートDVを経験している者は13.5%となっている。また、自分は役に立つ人間とは思えないと回答する者も59.6%あり若い女性の自己肯定感の低さがうかがえる。

### 事業費（千円）

（1）思春期から30歳代における健康支援事業	4,128
（2）中高年期における健康支援事業	4,050
（3）女性のがん支援事業	1,533

## (1) 思春期から30歳代における健康支援事業

事業名	思春期から30歳代の女性への健康支援事業
分野	<input checked="" type="checkbox"/> 健康教育 <input type="checkbox"/> 健康手帳の交付 <input type="checkbox"/> 健康相談
事業費(千円)	

## 事業目的

平成20年度に実施した県内女子大学生を対象とした調査から、若年の女性の健康課題として「やせ」志向が強く、ダイエットの経験があるものが74.2%、「イライラして過食・拒食をしたことがある」、「自分が役立つ人間だと思えない」等の回答が多く、女子大学生の健康課題や女子大学生が持つ自己イメージを把握できた。そこで、健康講座や講演会の企画や普及啓発媒体の協働作成をとおして、女子大学生の健康の増進を図るものである。

## 事業対象

協力大学の学生も含め県内女子大学生を対象

## 事業実施体制・展開

- ① 県内大学を対象に、女子大学生の健康調査結果、性感染症や子宮頸がん検診等テーマに女性の健康力アップ研修会を開催する。女子大学生の健康に関して関心の高い大学をピックアップし個別に働きかける。
  - ・担当教員は心理学系、栄養学系の教員が中心にゼミの学生に働きかけを行う。
  - ・担当教員と学生の協力により、女子大学生の健康に関する講座のテーマ・内容について検討を行う。
- ② 講座の開催にあたり、協力大学の担当教員より、女性の健康に関心のある学生を企画委員として選出。
  - ・学生を交えた企画会議の開催。学生が主体となって講座のポスター等を作成し校内に掲示する。
  - ・講座の運営についても学生の協力により実施する。
- ③ 普及啓発媒体の作成については、協力大学の担当教員により、協力する学生を選出。
  - ・調査結果の説明及び啓発媒体のコンセプトの共有をはかる。普及媒体作成に関する打ち合わせを5回開催する。
  - ・学生の自由な発想を尊重しながら、伝えるメッセージについて検討を重ねる。
  - ・女性の健康週間に「女性の健康」講演会を大学構内で実施し、作成した普及啓発媒体について配布及び趣旨の説明を行う。

## 事業目標・評価項目 及び その結果

- ・ネットワーク会議の参加数 11校(22%)
- ・企画会議を3回開催
- ・「女性の健康」講演会 アンケート満足度 「満足」75% 「やや満足」8%
- ・「女性の健康」講演会 受講後の成果 「効果あり」95%
- ・普及啓発媒体の作成 4種(月経・食・ストレス・子宮がん)

### 事業の工夫点

- ・ 関係大学、関係地区組織との連携を重視し、企画や調整に時間をかけた。
- ・ 事業関係者それぞれが実施により利益が得られるように配慮しつつ協力体制の構築を心がけた。
- ・ 事業の企画に参加した学生が、①健康について関心をもてるようになる②自己肯定感や達成感がもてるように働きかけを行った。

### 事業の効果についての評価・考察

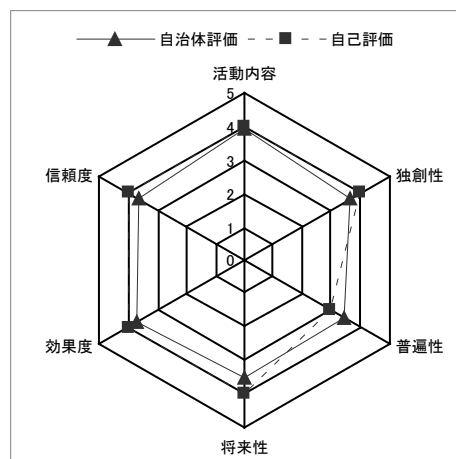
- ・ 事業の協働ができた協力大学から、事業に参画した学生や担当者の女性の健康への関心が高まり、その重要性に気づくことができたという評価を得た。また、当事者や周りにいる人の理解を得る必要性を実感したため、平成22年度以降も女性の健康をテーマにした講演会等を県と協働で実施したいという意向があがった。
- ・ 大学間の保健関係者のネットワーク会議では、孤立していた保健関係者の情報交換の場となった。特に大学では学生のメンタルヘルスについて多くの問題を抱えており、対応に苦慮していることから、保健関係者間で情報共有し対応方法について学び合う場として、大学保健関係者間のネットワーク構築の足がりとなった。
- ・ 作成した普及啓発媒体は、マグネットやクリアフォルダーで継続したメッセージが発信できる媒体とした。また、学生の感性やアイデア等を取り入れた手作り感は、斬新でターゲットとしている対象者へ効果的な啓発グッズとなった。

### 今後の課題

- ・ 女性の健康支援対策事業予算が今年度限りのため、予算のかからないネットワーク会議をより魅力的に運営することが必然。他の分野との協働等の問題を無視しても、女性の健康に限らず社会全体での女性問題を取り上げ、ネットワークを拡張しないことには運営が途絶えると思われる。また、自主的な活動の『核』が必要不可欠であり女性の健康にいかにかん感して取り込んでもらえるかを考えて事業展開を行わなければならない。

ホームページ	<a href="http://www.pref.saitama.lg.jp/">http://www.pref.saitama.lg.jp/</a>
照会先	埼玉県保健医療部健康づくり支援課健康増進担当

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4	県内の女子大学生や大学関係者との連携に基づく活動であり、ニーズを反映した活動内容であった。
②独創性	4	女子大学生との連携により、メッセージ性の高い普及啓発媒体が作成できた。
③普遍性	3	大学間のネットワークの定着により、事業の拡大が図れる。
④将来性	4	大学間のネットワークの定着により、事業の拡大が図れる。男女共同参画センターとの連携を図り総合的に推進する。
⑤効果度	4	県内の女子大学との連携により事業展開ができ、平成22年度も大学の取組として定着することができた。
⑥信頼度	4	事業実施後のアンケートを実施し、評価を行っている



## (2) 中高年期における健康支援事業

事業名	中高年女性の健康支援
分野	<input checked="" type="checkbox"/> 知識の提供 <input type="checkbox"/> 健康相談 <input checked="" type="checkbox"/> 情報提供
事業費（千円）	4,050

## 事業目的

目的：中高年期女性の体や口腔の変化を理解し、正しい健康行動がとれるように支援する。

- ① 更年期女性のホルモンの変化や起こりやすい更年期の症状等をテーマに県民対象の公開講座の開催するとともに女性の健康に関する小冊子の作成をとおして、県民の健康を増進する。
- ② 歯科診療所の活用や集団健康教育の場を利用して、口腔の健康に関する情報の提供、自らの歯・口の健康への関心やセルフケアの実践等のきっかけ作り、必要に応じた歯科保健サービスの提供等を支援する。

## 事業対象

中高年の女性

## 事業実施体制・展開

## (1) 埼玉県医師会委託事業「更年期に関する県民講座」

- ・更年期に関する県民公開講座の開催及び小冊子を作成するために、医師会内に検討委員会を設置して5回開催。
- ・平成22年1月31日（日）更年期に関する県民公開講座「更年期を素敵に過ごすために」開催。
- ・周知方法は新聞折り込みチラシや行政窓口等にチラシを設置。また、新聞社やミニコミ紙等に掲載。
- ・公開講座の会場をデパートのホールとし、買い物客の女性が参加しやすいように配慮した。
- ・女性の健康に関する小冊子として①更年期②妊婦健診③子宮頸がん④子宮頸がんワクチンの4種類を作成した。

## (2) 埼玉県歯科医師会委託事業「口から始めるアンチエイジング」

- ・埼玉県歯科医師会女性歯科医会（臨時委員会）の協力の下、延べ6回の担当者会議を開催し、講演会に使用するスライド等を作成し、標準化を図った。
- ・平成22年2月9日「第39回埼玉県健康づくりのつどい」における歯科保健講演会の開催。
- ・県内各地での「食生活改善推進員連絡協議会」において歯科保健講演会を開催し、関係機関のネットワーク構築に努めた。
- ・県内歯科診療所（20診療所）において、診療空き時間を活用して来院患者を対象に歯科保健講演およびミニ演習を開催する。
- ・事業の評価を行うため、アンケートを作成し参加者の理解度や歯科の受診行動等の把握をおこなった。

## 事業目標・評価項目 及び その結果

## (1) 埼玉県医師会委託事業「更年期に関する県民講座」

- ・公開講座の満足 「非常に良かった」52%「良かった」48%
- ・女性の健康に関する小冊子4種類作成 ①更年期②妊婦健診③子宮頸がん④子宮頸がんワクチン

## (2) 埼玉県歯科医師会委託事業「口から始めるアンチエイジング」

- ・講話参加の満足 「非常に良かった」78%「良かった」19%
- ・口から始めるアンチエイジングの意識変化 「大いに変わった」59%「すこし変わった」39%
- ・得た知識の実践について 実践する96%

### 事業の工夫点

- ① 埼玉県医師会委託事業「更年期に関する県民講座」 医師会内に検討委員会を設置し、事業の企画を行った。また、周知方法の工夫や、ショッピングをしながら参加できる会場に設定するなど設営会場の考慮をした。
- ② 埼玉県歯科医師会委託事業「口から始めるアンチエイジング」 歯科医師会女性歯科医会（臨時委員会）を設置。資料の作成等を行い、県内の診療所や保健所の講演等で同一のサービスの提供を可能にした。

### 事業の効果についての評価・考察

#### (1) 埼玉県医師会委託事業「更年期に関する県民講座」

・日頃、「更年期」という言葉はよく耳にするが、実際にどういう状態が更年期で、どのような治療法かは知られていなかった。ホルモン充填療法に関する質問が多く、本事業のアンケート調査からは「大変わかりやすい内容で参考になった。」との回答が多いことから、更年期が漠然とした問題となっていることを改めて感じる機会となった。

(参加人員150人)

#### (2) 埼玉県歯科医師会委託事業「口から始めるアンチエイジング」

・口腔とアンチエイジングの明確な関係を知らない参加者が多く、講演や実技をとおして参加者の興味関心を得た。取りかかりとしての周知・啓発力は高く、イメージ効果と独創性が見られた。

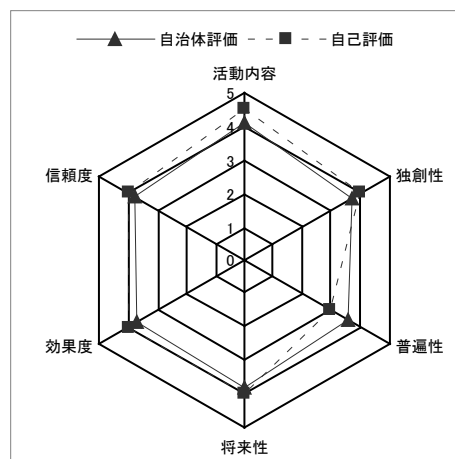
・参加した人は周囲の人にも広げたいという意向がうかがえることから再度の開催が望まれていると考えられる。

### 今後の課題

平成21年度限りの委託事業であるが、委託した2団体とも事業の継続に前向きであることから、次年度以降も事業が継続できるように団体への働きかけを行う。事業の継続性をはかるには、予算措置も必要であるが、講師を務めた歯科医師が参加者の学習意欲に触発されていることも考慮し、形式的な事業展開ではなく医療従事者の自発性や要望に対応する形での事業継続展開を促していきたい。

ホームページ	<a href="http://www.pref.saitama.lg.jp/">http://www.pref.saitama.lg.jp/</a>
照会先	埼玉県保健医療部健康づくり支援課健康増進担当

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.5	県内の保健所や診療所を活用した事業の展開ができたことが評価できる
②独創性	4.0	アンチエイジングや素敵に更年期とネーミングすることで参加者にポジティブなイメージを伝えた
③普遍性	3.0	検討委員会を設置した事業の企画であり関係者が共通認識を持って取り組んでいる
④将来性	4.0	再委託先が事業主体として偉業の継続を考えている
⑤効果度	4.0	アンケートから行動変容を心がけたいとの回答が多く効果はあった
⑥信頼度	4.0	事業終了後のアンケートにより評価を行った



## (3) 女性のがん健康支援事業

事業名	女性のがん支援事業
分野	□啓発活動      ■健康教育      □健康相談
事業費（千円）	1, 533

## 事業目的

当県は女性がんによる標準化死亡比が子宮がん 120.8、乳がん 108.9 と高く。女性がんのがん検診受診率は、乳がん 9.8、子宮がん 12.0 と全国（乳がん 14.2、子宮がん 18.8）に較べて低いことから、がん検診受診率の向上をめざした普及啓発及び県民参加によるピンクリボンウオーキングを開催し、女性がんに関する知識と乳がん自己検診法の普及や、自己検診法や検診受診促進について気運を高める。

## 事業対象

女性全般を対象とし、特に21歳の子宮頸がん対象者をターゲットとする

## 事業実施体制・展開

## (1) 乳がんに関する講演会（坂戸市の取組）

- ・乳がん検診に関する講演会の機会を設ける。周知について、HP、チラシ、ポスターで周知を行う。
- ・講演会の前後に調査を実施し知識の理解度を把握する。3ヶ月後にアンケート調査を実施し乳がん自己検診の定着を促す。

## (2) 女性がん検診受診率向上のための啓発事業（八潮市の取組）

- ・市の死亡状況や検診受診率についてアセスメントを行い、リーフレットの作成を行う。
- ・がん検診受診の定着を目指し、初めてがん検診受診対象年齢となった市民に検診受診案内とリーフレットの発送を行う。
- ・特に21歳の子宮頸がん対象者には、アンケートを同封し女性がんに関する意識調査をおこなった。

## (3) ピンクリボンウオーキング（戸田市の取組）

- ・市民健康まつりと同時開催とし、実行委員会形式により市民、関係機関と打ち合わせを行う
- ・市民参加によるウオーキングの開催とし、市民が参加を呼びかける。
- ・休憩地点では、乳がんに関する知識を普及するため、乳がん発生の後発部位、乳がん自己検診、マンモグラフィー等に関してクイズ形式で働きかける。
- ・ウオーキング終了後に、乳がんに関するアンケート調査を実施し、知識の習得度について確認を行う。

## 事業目標・評価項目 及び その結果

- ・乳がんに関する講演会周知実績 チラシ配布10,362枚、ポスター配布掲示103枚（施設数112）
- ・乳がんの予防に対する知識 乳がんに関する講演会前に比べ講演後の調査で7項目中5項目の正解率上昇
- ・女性がん検診受診率向上のための啓発事業アンケート結果 通知が役に立った83%
- ・同アンケート結果 勧奨通知後の検診受診意欲の向上 あり75%
- ・ピンクリボン運動参加後の乳がんに対する意識変化 変化した82%

### 事業の工夫点

- ・ 市町村の現状の分析を行い。女性の健康指標の把握をおこなった。
- ・ 関係機関やボランティアとの連携により、女性がん検診受診率の向上の必要性について共通認識がもてた。その結果、事業規模が拡大するという結果が得られた。

### 事業の効果についての評価・考察

- ・ 事業に取り組んだ3市とも市の死亡状況やがん検診受診率等の把握を行い地域アセスメントができ、若年女性のがん検診においては受診率が著しく低いことが明らかとなった。若年女性のがん(健康)に対する危機感や「私は大丈夫」といった自己を対象から除外視する逃避行為が深層に根強く存在することが伺える。
- ・ 評価を視野に入れた事業計画の立案が必要であり、『対処』だけでは事業の拡がりを成さないことを理解する機会となり、市町村保健師の意識改革を図ることができた。
- ・ 「評価のために自己検診実施状況を3ヶ月後に調査する」ことによって新たな動機付けが付加したと考えられる。結果89.0%の継続率が認められ、動機の見直しや新たな付加が必要であることが示唆された。
- ・ ピンクリボンウオーキングに疑似乳房の触診体験やマンモグラフィ検査の疑似体験を付加したことは、「参加する(だけの)意義」から「参加し体験する」ことの付加意義が高く、自らの健康問題として認識する場として効果が高いと思われる。
- ・ 事業の中で乳がん検診未受診の理由を把握したところ、知らなかったとする回答が多く、検診の周知や啓発の難しさが示された。

### 今後の課題

- ・ ピンクリボンウオーキングに体験的な事業を付加したことを例にとっても、女性がん検診受診のみならず、普及啓発について、チラシを配る・掲示するといった消極的な周知方法を見直すべきであると考え。事業主体の中に参加者や対象者を巻き込んだ事業展開の可能性を垣間見た。今後実践していきたい。
- ・ 特定健診受診時にがん検診が受診できるように、体制整備を促していく。

ホームページ	<a href="http://www.pref.saitama.lg.jp/">http://www.pref.saitama.lg.jp/</a>
照会先	埼玉県保健医療部健康づくり支援課健康増進担当

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4	ピンク・リボンウオークでは住民参加の実行委員会形式で企画され実行委員の意識向上につながった。
②独創性	4	既存事業を活用した事業展開も実施され工夫がなされている。
③普遍性	3	他の自治体でも取り組める内容となっている。
④将来性	4	事業を実施した市では、次年度の計画を立ており事業の継続がはかれた。
⑤効果度	4	事業実施にあたりアンケート調査を行ったところ、事業は概ね評価されていた。
⑥信頼度	3	事業実施にあたりアンケート調査を行い、効果の判定・評価に努めた。事業効果の判定について

